

きめ細かなヒアリングで、
将来を見据えたインフラ構築をサポート

オンプレミス環境の 整理・統合で 30%の効率化を実現

はじめに

運用保守負担が増えるオンプレミス環境

オンプレミス環境にあるサーバーやデータ、システムの管理に頭を悩ませているという話をよく伺います。

では社内のITインフラをクラウド化すれば、これらの課題は解決するのでしょうか。なかには、容易にクラウド化できない環境もあります。実はクラウド化だけでなく、オンプレミス環境でリソースの保有コストと運用負担を下げながら、パフォーマンスの向上を実現する選択肢があります。

そこで、テクバンの丁寧なヒアリングと提案により、ハードウェアやソフトウェアが多く、運用負荷が非常に高かったITインフラを整理、統合。システムの拡張性を高め、運用管理の効率化とコストダウンに導いた企業事例をご紹介します。

INDEX

はじめに	1
運用保守負担が増えるオンプレミス環境	
1. 導入の背景	
課題：複雑化した仮想化基盤の管理負担、非拡張性が課題	4
課題1：仮想化基盤が乱立。活用・拡張性に課題	5
課題2：管理対象のシステム・機器が多く負荷が高い	6
2. オンプレミスインフラ構築支援が選ばれた理由	
メリットが多い新たなインフラ構築の提案	8
メリット1：柔軟に拡張できるインフラ構築の提案	9
メリット2：運用保守の一元管理で負荷低減が叶う	10
メリット3：リソースに過不足なく、最適な投資で済む	11
3. 導入の効果	
効果1：運用負荷とコストの削減を同時に実現	13
効果2：リソースの有効化、拡張性、性能アップを実現	14
効果3：遠隔地バックアップによるデータ保全性の向上	15
効果ビフォーアフター	16
おわりに	17
オンプレミス環境を将来の負担にしない	
企業情報	